

起業ファイル

トータルケア・システム (福岡市)



おむつのリサイクル処理後、再生パルプを手にする
社長 (福岡県大牟田市)

高齢化に伴い、福祉施設や家庭から廃棄される紙おむつが増えている。通常は焼却処分されるケースが多い中、大牟田エコタウン(福岡県大牟田市)のリサイクル工場で、おむつの再資源化を手がけ、先駆的な試みとして注目されている。

紙おむつを再資源化

- ・ 設立 2001年
- ・ 資本金 1億1700万円
- ・ 従業員 16人
- ・ 売上高 2億4000万円 (11年9月期)

再資源化を業界全体の取り組みにしようと、ユニ・チャームなど大手メーカーや病院にも出資を仰いだ。総額8億円をかけて2005年4月から本格稼働した工場では現在、福岡県や佐賀県などから紙おむつを収集し、処理能力は1日約10万枚(20ト)。焼却に比べて、二酸化炭素の排出も約40%削減できるという。

日本衛生材料工業連合会(東京)によると、紙おむつの11年の生産量は145億枚。最近10年で倍増し、「潜在市場」は大きい。社長は「他社へのノウハウ提供も含めて専用プラントを増やし、リサイクルを広げていきたい」と意欲をみせている。

病院向けなどにおむつ販